

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名：NPO84プロジェクト

記入者名： 田中拓美

上位関連計画にみる地域の将来
 ○現在の高知県人口：689,785人（2020年10月）、653千人（2030年）、536千人（2040年）
 ○高知県への移住者数：121組 2012年度、1,030組(1,475人) 2019年度、1,300組 2023年度

②具体的な取組
 ・高知県小規模林業推進協議会を中心とした「高知・自伐型林業ネットワーク」の構築
 ・自伐型林業を核にした地域共生圏づくりのためのシステム構築の検討
 ・森林の多面的活用を目指した84プラットフォーム会議の開催

①ありたい未来
 ・日本一の森林率「84はちよん」を「あかるくブランディング」することによって、森と人のコミュニケーションが生まれる。そして新しい産業が生まれる。
 ・自伐型林業（小さな林業）と農業等との兼業により、年収500万円以上、4人家族以上となる世帯が増える。
 ・その大半が都会からのUターン者で構成される状況となる。
 ・高知県内各地に、自伐型林業を育成する推進団体が20団体以上生まれる。
 ・また、市町村の政策として自伐型林業を推進する自治体が20団体以上生まれる。
 ・広大な森林で地域就業が増える状況を創出することが中山間地域再生の本丸であることが証明され、
 ・この高知県の取り組みが全国モデルとなり、全国普及が始まっている。
 ・中山間地機の条件不利農業の維持策が自伐型林業との兼業であることも全国認知されている。
 ・獣害対策の根本療法が、里山エリアを自伐型林業で毎年施業するエリアに変える（人間領域）ことであることが認知されている
 ・土砂災害を防止、予防できる自伐型林業による環境保全型林業展開の重要性が認知されている。
 ・中山間地域に若者が多数対応できる仕事創出が、集落支援や地域福祉強化の基礎であることが証明されている

③短期目標

	小項目	成果指標	現状値	目標値	実績値	単位
環境	放置森林の減少	自伐型林業施業面積	1,200	1,500	1500	ha
	土砂災害の減少	災害を起こさない森林面積の拡大	1,200	1,500	1500	ha
	獣害の減少	農業・林業被害額減少	123	116	未集計	百万円
経済	自伐型林業就業者の増加	小規模林業推進協議会会員増	500	550	560	人
	移住者の増加	高知県への移住者（組）数	1,030	1,165	未集計	組
	自伐型林業地域推進団体の増加	活動団体数	4	7	6	団体
	自伐型林業を推進する自治体の増加	自治体数	6	8	9	市町村
	自伐型林業研修会	研修相談会開催回数	0	3	5	回
社会	防災対策への参画	自伐知識を用いた防災展開集落数	0	2	5	集落
	集落支援要員の増加	自伐と兼業した集落支援員数	0	2	5	人

			目標値（経過） （2021年度末）	目標年度 2030年度	長期目標値 2050年度	単位
環境	放置森林の減少	自伐型林業施業面積	1,500	10,000	100,000	ha
	土砂災害の減少	災害を起こさない森林面積の拡大	1,500	10,000	100,000	ha
	獣害の減少	農業・林業被害額	116	73	73	百万円
経済	林業就業者の増加	小規模林業推進協議会会員増	550	1,000	2,000	人
	移住者の増加	高知県への移住者（組）数	1,165	1,500	2,000	組
	自伐型林業推進団体の増加	活動団体数	7	20	25	団体
	自伐型林業を推進する自治体の増加	予算化し自伐推進する自治体数	8	20	25	市町村
	自伐型林業研修会	研修相談会開催回数	5	20	25	回
社会	防災対策への参画	自伐知識を用いた防災展開集落数	5	20	100	集落
	集落支援要員の増加	自伐と兼業した集落支援員数	5	20	100	人

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

当取組や自伐型林業や小規模林業の展開がモデル事例となり、高知県全体へ広がり、さらに全国普及へと繋げる計画。
 また、自伐型林業普及に伴い、里山に常時人が入ることにより、里山の手入れや土砂災害の防止、さらに獣害の防止に繋がる。さらに、集落支援や地域福祉強化に繋がる。
 日本の大きな特徴である、地域面積の大半を占める森林を使う環境保全型の就業創出が、日本の中山間地域の根本療法になること示していく。
 ■補足1. 「獣害の減少」は、獣害被害額（高知県統計）では平成24年をピークに下がり始め、令和元年は平成24年の1/3にまで減少して。自伐型林業者が増え始めたのは平成21年頃からで、26年に高知県小規模林業推進協議会が立ち上がり、一気に増加して、獣害減少値と正比例している。自伐型林業者の特徴は、施業する山を変えていく森林組合と違い、固定した山に入り続けること、副業や趣味として狩猟する人が多い（5人に一人程度）。イノシシ等の捕獲数も増えている。自伐型林業者が増えることが一因になっていることは明白で、増えた地域(特に佐川町等の仁淀川流域は約150人増)では明らかに柵をする農地が減少している。